

令和 7 年度 代田南児童館 活動報告



〆〆世田谷区子ども夢プロジェクト
代田南児童館プロジェクトメンバー

発行：令和 8 年 5 月

1. 重点活動

(1) 子ども夢プロジェクト

***夢の〇〇大会 6月28日(土) 出演者 16名、観客 31名**

子どもたちが歌やダンス、お笑いなど自分のやりたい発表を持ち寄り、舞台に立った。出番前は落ち着かない様子もあったが、始まると堂々と声を出し、客席から大きな拍手をもらえた。仲間の挑戦を応援する空気も広がり、自分たちの夢を形にする楽しさと達成感を味わえた。



***生き残りウォーターバトル 7月31日(木)**



計 52 名(夢プロ 11 名、参加者 33 名、協力者 8 名)

夢プロメンバーがルールづくりやポスター掲示、受付まで担い、水鉄砲バトルを自分たちの行事として動かした。地域協力者や保護者が見守る中、逃げる子も追う子も全身で走り回り、歓声が途切れなかった。準備する側の真剣さと参加する側の高揚感が重なり、夏らしい勢いのある一日となった。会の終わりには、また挑戦したいという前向きな気持ちが広がっていた。

***くらやみかくれんぼ 8月28日(木)**

計 51 名(小学生 38 名、中学生世代 1 名、協力者 12 名)

夜の児童館とさくら花見堂を使い、子どもたちの発案によるくらやみかくれんぼを実施した。子どもスタッフが進行や鬼役を担い、中学生協力者やサポーターが安全面を支えてくれた。自分たちで特別な場を動かした実感が強く残り、夢プロらしい挑戦となった。



***ボールいっぱい集会室 9月6日(土)**



計 17 名(夢プロ 15 名、保護者 1 名、中高生世代 1 名)

集会室いっぱいのボールであそんだ後、そうめんを囲んで夢プロの活動を振り返った。『あの場面が楽しかった』『次はこんなことをしたい』と自然に話がはずみ、保護者や中高生サポーターも同じ輪に入った。あそびと食事を通して気持ちがほぐれ、次の企画へ向かう意欲が高まった。

***廃童館の謎 2月22日(日)**

計 66 名(49 名+夢プロメンバー17 名)

児童館全体を廃墟に見立てた謎解き企画を、子どもスタッフが中心となって作り上げた。会場づくりや役割確認の段階から子どもたちが自ら動き、当日は参加者が楽しめるように取り組んでいた。地域の大人や職員の支えを受けながら、子どもたちの発想と実行力が見られた集大成の行事となった。



(2) サマーキャンプ 8月20日(水)～22日(金)



参加者 34 名、引率 10 名

秩父の自然の中で川あそびや炊飯、宿泊生活を重ね、子どもたちは普段の館とは違う時間の流れを味わった。中高生リーダーが年下の子に声をかけ、荷物や行動面をさりげなく支える場面が多く見られた。うまくいかないことも仲間と相談して乗り越え、協力する面白さと大きな達成感が残るキャンプとなった。

(3) さくら花見堂まつり～まぼろしの森～ 10月26日(日)



871 名(来場者 716 名、子ども・大人スタッフ 155 名)

雨天のため館内開催となったが、子どもスタッフが各コーナーの呼び込みや案内を落ち着いて担った。さくら花見堂と児童館の大人スタッフも声を掛け合い、来場者が安心してあそべる流れを丁寧につくった。児童館コーナー以外にも多くの模擬店やあそびのコーナーを地域の方の力によって運営していただき、地域力を強く感じた。

(4) 低学年ミニキャンプ 11月23日(日)～24日(月)



1～3 年生 39 名、4～6 年生 9 名、中高生 6 名 ほか

初めての宿泊に不安そうだった子も、まち歩きや夜の活動を重ねるうちに表情がほぐれていった。高学年や中高生リーダーが荷物の準備や生活の流れをそっと支え、年下の子に寄り添う姿があちこちで見られた。眠る前まで笑い声が続き、異年齢で過ごすからこそその安心感と成長が見られる行事となった。

(5) 中高生お泊まり会 3月21日(土)～22日(日)



31 名(小学 6 年生～高校 3 年生、青年協力者を含む)

中高生が実行委員となり、食事や館内あそびの内容を話し合いながら自分たちの会を形にした。買い出しや準備、声かけまで役割を分け、青年協力者も見守りながら背中を押した。夜が深まるにつれて会話も打ち解け、学年を超えて安心して過ごせる関係とリーダーシップの育ちがはっきり見えた。楽しさの中にも学びがあり、日常へつながる実感を得られる機会となった。

2. 日常活動

(1) 創作活動

***お皿をつくろう** 5月27日(火)～31日(土) 39名



粘土をこねて形を整え、葉っぱや網目を押し当てながら自分だけのお皿づくりに取り組んだ。地域サポーターが手元を支えると、子どもたちは『ここを少し深くしたい』と細部まで工夫を重ねた。静かに集中する時間もあるが、参加者同士でおしゃべりしながらの楽しい時間もあり、創作の楽しさを伝えられる活動となった。

***アイロンビーズでキーホルダーづくり** 6月25日(水) 9名

好きな色を選び、並べ替えながらアイロンビーズの図案をじっくり考えた。友達同士で『その色きれいだね』と見せ合ったり、おそろいの形に挑戦したりする場面もあり、会話が広がり、楽しんでいた。細かな作業をやり切った喜びが、作品を手にした表情にはっきり表れていた。一緒に過ごした時間の充実が、参加者のやわらかな表情に表れていた。

***キラキラサンキャッチャーづくり** 8月2日(土) 6名

プラバンとビーズを組み合わせ、光を受けて輝くサンキャッチャーを一つずつ作った。ビーズを選ぶ時間から個性が出て、『こっちの色にする』『やっぱり並べ替える』と迷う様子も楽しそうだった。完成後は窓辺にかざして光の反射を見比べ、夏らしいきらめきを味わう時間となった。それぞれのペースを大切にすることで、安心できる関わりを作ることができた。

***中学生リーダーとミサガを作ろう** 11月29日(土) 5名+中学生リーダー1名

中学生リーダーが教える役となり、職員とともに糸の持ち方や編み方を小学生へ一つずつ丁寧に伝えた。難しいところで手が止まるとすぐ横で見本を見せ、『できそう』と表情が変わる場面があった。憧れの中学生と机を囲むことで会話も自然に生まれ、異年齢で学び合う時間となった。子どもも大人も自然に関わり合い、異年齢交流が深まった。

***キャンドルづくり** 12月17日(水)～20日(土) 32名

色や形の組み合わせを考えながら、キャンドルづくりにじっくり向き合った。何度も参加している子は複雑な模様に挑み、初めての子も周りの作品を見ながら自分なりの工夫を重ねた。完成した作品を大事そうに持って帰る姿が印象に残った。



***シーサー風おきものづくり**

1月7日(水)・9日(金)・10日(土) 18名

粘土の成形と色付けを分けて行い、表情豊かなシーサー風の置き物を仕上げた。『強そうにしたい』『やさしい顔がいい』と口元や飾りにこだわる姿があり、一つとして同じ作品は生まれなかった。静かに手を動かす時間の中に発想の広がりがあり、創作に没頭する姿も見られた。

***毛糸とかぎ針でつくってみよう** 1月16日(金) 5名

初めてかぎ針を持つ子も、一目ずつ編み進めるうちに少しずつ手つきが整っていった。途中でほどこいてやり直す場面もあったが、職員と確認しながら最後まで手を止めずに取り組んだ。少人数だからこそ落ち着いて挑戦でき、『自分で編めた』という達成感が残った。終了後にはできた作品を他の職員に見せるなどする姿があり、参加者の満足した様子がうかがえた。

***もふもふアニマルキーホルダー 2月6日(金) 11名**

プラバンに毛糸を巻き付け、耳や顔の表情を工夫しながらアニマルキーホルダーを作った。細かい作業に苦戦する場面もあったが、友達や職員と相談しながら少しずつ形にしていって粘り強さがかうかえた。完成した作品をバッグに当てて眺める姿に、自分だけの一点を作る喜びが見られた。



***織り機であみあみ 3月12日(木) 3名**

織り機に糸を通し、コースターや小物づくりに自分のペースで取り組んだ。少人数の落ち着いた空気の中で色合わせや手順をじっくり確かめ、糸が少しずつ布の形になる変化を楽しんでいた。同じ作業の繰り返しで早く終えたい気持ちが出る子もいたが、完成に近づくにつれて表情もやわらぎ、手仕事のおもしろさをゆっくり味わえる時間となった。

(2) スポーツ活動

***キックベース 4月2日(水) 32名**

学年の違う子どもたちが集まり、ルールを教え合いながら元気よくキックベースを楽しんだ。最初は遠慮がちだった子も、試合が進むにつれて名前を呼び合い、打った後は全力で走り出す姿が増えていった。新年度の始まりに、あそびを通して仲間関係が広がっていく手応えを感じた。



***ドッジボール 5月21日(水) 50名**

経験のある子が立ち位置や投げ方を伝え、初めての子も安心して試合に入れる雰囲気生まれた。外野からの応援もあり、当てても当てられてもすぐに切り替えて動く姿が印象に残った。勝敗だけでなく、みんなで楽しむための声かけや配慮が自然に見られた。

***ラダーゲッター 6月5日(木)・13日(金)・18日(水)・24日(火) 延べ67名**

ニュースポーツのラダーゲッターを複数回行い、子どもたちは狙いを定めて何度も投げ方を試した。うまく引っかけると周りから歓声が上がり、経験のある子が初めての子へコツを伝える流れも生まれた。簡単そうで奥深いあそびに夢中になる姿が続き、異学年の交流が自然に広がった。



***紙飛行機チャレンジ 7月23日(水) 25名**



折り方や羽の角度を工夫しながら作り、飛距離や的当てに挑戦した。よく飛ぶ形を本で調べたり、職員と一緒に飛ばし方を試したりする中で、子どもたちの工夫が次々に生まれた。作って終わりではなく、試して直す面白さを味わえる活動となった。

***ドッジボール 9月18日(木) 36名**

経験の差があっても一緒に楽しめるよう声をかけ合いながら、勢いのある試合が続いた。中学生も加わって盛り上がる一方、失敗を責めそうになる場面では職員が立ち止まって言葉を返し、あそび方をみんなで考えた。称え合ってあそび大切さを実感し、集団で過ごす機会となった。

***ボールで遊ぼう 10月11日(土) 30名**

王様ドッジボールを中心に、いつもより変化のあるボールあそびを楽しんだ。やわらかいボールを使ったことで苦手意識のある子も動きやすく、『誰が王様かな』と楽しむ様子が見られた。異学年が入り混じっても自然にあそびが成立し、相手を見ながら動く面白さを感じる時間となった。

***ひさしぶりラダーゲッター 1月14日(水) 18名**

久しぶりのラダーゲッターに期待した子どもたちが集まり、投げ方を思い出しながら高得点を目指した。経験者が『このくらいで投げるといいよ』と声をかけ、初めての子も何度も挑戦するうちに表情が明るくなった。寒い時期でも体を動かしながら、にぎやかな交流が生まれる活動となった。

***テンカ最強決定戦 2026 3月28日(土) 18名**

人気のボールあそび『テンカ』の大会を開き、子どもたちは真剣な表情で勝負に向かった。勢いのある試合の中でも、高学年が年下の子に強く当てすぎないように気を配る場面があり、相手を思う姿勢が見られた。勝敗に一喜一憂しながらも最後まであきらめない姿が見られ、楽しい時間となった。

(3) 食育・調理活動

***飯盒炊爨チャレンジ 4月5日(土) 11名**

薪で火を起し、飯盒でご飯を炊くところから自分たちの手で挑戦した。火加減に迷う場面では友達同士で声を掛け合い、炊き上がる香りが広がると期待した表情が一気に高まった。できたご飯を味わう時間まで含めて、野外で作って食べる喜びを存分に感じる活動となった。

***キッチンだいなん(親子丼) 6月7日(土) 小学生15名+地区サポーター4名**

地区サポーターに包丁の使い方や手順を教わりながら、親子丼とみそ汁づくりを進めた。役割を分けて調理する中で『次はこれやるね』と声を掛け合う姿があり、食卓を囲むころには会話もいっそう弾んだ。地域の大人に支えられながら、自分で作って食べる楽しさがしっかり伝わる時間となった。自分でできたという実感が積み重なり、次への自信へと結び付いていった。



***みんなで一緒に食事会(夏) 8月7日(木) 24名**

梅丘地区の連携企画として、地域サポーターや高齢者と一緒にカレー作りを行った。包丁の持ち方を教わりながら野菜を切る子、配膳を進んで担う子など、それぞれの役割が自然に見つかっていった。食卓では世代を超えた会話が弾んでいた。

***キッチンだいなん(ハンバーグ) 11月8日(土) 小学生16名+地区サポーター4名**

子どもたちのリクエストを受けてハンバーグとケーキを作り、地区サポーターが班ごとの作業を丁寧に支えた。こねる、焼く、飾ると工程が進むたびに期待が高まり、焼き上がりの匂いに思わず笑顔がこぼれた。食事を囲むころには場がすっかり和み、多世代で味わうおいしさの温かさが広がった。



***みんなで一緒に食事会(冬) 12月26日(金) 20名**

地域の高齢者やボランティアと冬の食事作りを進め、あたたかい料理を一緒に囲んだ。下ごしらえの段階から『それ手伝うよ』と声が飛び交い、作業班ごとの会話が弾んでいた。多世代交流が食事をとおして自然とできていた。

***キッチンだいなん(麻婆豆腐) 3月14日(土) 16名**

班ごとに材料を切り、炒め、盛り付けまで役割を分けながら麻婆豆腐といちごゼリーを作った。地域サポーターとのやり取りの中で手順を確認し合い、調理が進むにつれて表情にも自信が見えてきた。自分で作る楽しさやおいしさを実感する活動となった。

***みんなで一緒に食事会(春) 3月26日(木) 16名**

地域の方々と春らしい献立を調理し、食事の合間には昔あそびやトランプも楽しんだ。台所とあそびの場を行き来しながら子どもと大人の会話が自然に生まれ、初めて顔を合わせる相手とも距離が縮まっていった。食べることとあそぶことの両方で交流することができた。

（４）表現活動

***だいなん・ジャグリング・デイ** 年 12 回 年間延べ 252 名

年間を通してジャグリングに触れ、子どもたちはできる技を少しずつ増やしていった。技が成功すると周りから拍手が起こり、経験のある子が初めての子に教える流れも自然に育った。日常のあそびが発表の場や自信につながり、積み重ねることの力を実感する活動となった。場集った人たちの笑顔が重なり、この活動の手応えを感じた。



（５）季節活動

***新 1 年生おめでとう会** 4 月 23 日（水） 参加者 38 名、子どもスタッフ 20 名

子どもスタッフが準備や進行を担い、新しく来館した 1 年生を温かく迎えた。ジャグリングや劇、じゃんけん列車が始まると、緊張していた子の表情が少しずつやわらぎ、会場に笑い声が広がった。上級生が場をつくる力と、児童館で過ごす楽しさが伝わるスタートの会となった。



***お正月あそびチャレンジ** 1 月 7 日（水） 49 名

羽子板、こま、けん玉、福笑いなどのお正月あそびに挑戦し、館内に新年らしいにぎわいが広がった。初めての子も友達からコツを教わるうちに何度も挑戦し、うまくできた瞬間には拍手や歓声が上がった。昔ながらのあそびを通して世代や学年を越えた関わりが生まれた。

（６）合同行事

***北沢地域ドッジボール大会** 11 月 29 日（土） 計 46 名

他館の子どもたちとの練習試合は、いつものあそびとは違う緊張感の中で始まった。試合が進むにつれて声援が大きくなり、作戦を相談しながら動く表情にも真剣さが増していった。勝ち負けだけでなく自分たちの強みを知り、本番へ向かう気持ちがまとまる機会となった。

***北沢・烏山地域児童館文化交流会（キッズフェスタ）** 2 月 8 日（日） 17 名

他館の子どもたちの前でジャグリングやダンスを披露し、練習の成果を舞台で出し切った。出番前は固い表情も見られたが、拍手が返ると声や動きに自信が増し、堂々とした姿が光った。日頃の積み重ねが発表につながる喜びを味わい、表現活動への意欲がさらに高まった。



3. 中高生活動

*最強の飯盒ご飯のお供決定戦！！ 4月5日（土）10名＋地域協力者4名

飯盒で炊いたご飯を囲み、それぞれが持ち寄ったおかずを味わいながら『ご飯のお供』を食べ比べた。地域協力者も審査に加わり、学校や部活の話が自然に広がって中高生の表情もやわらいた。自分たちで準備して食べる時間が、世代を越えた交流と居心地の良さにつながる会となった。自然体で関われる雰囲気の中で、それぞれの良さが引き出されていた。

*クレープをつくろう！ 6月28日（土）16名



買い出しから調理、片付けまでを中高生が協力して進め、好みのトッピングでクレープを仕上げた。『それおいしそう』『次は私が焼くね』と会話が自然に広がり、初対面同士の距離も少しずつ縮まっていた。作る時間も食べる時間もゆったり楽しめる、中高生らしい交流



流の場となった。参加した一人ひとりの満足そうな表情が、この時間の充実を物語っていた。

*歌うま選手権 8月9日（土）15名

好きな曲を順番に披露し、歌う人も応援する人も一緒に会場を盛り上げた。ペンライトや手拍子が加わると場に一体感が生まれ、出番を終えたあとの表情には達成感がにじんでいた。最後まで仲間の挑戦を楽しむ空気が続き、夏休みの思い出として心に残る時間となった。会の終わりには、また挑戦したいという前向きな気持ちが広がっていた。



*アルティメットであそぼう！ 9月13日（土）12名



フライングディスクを使うアルティメットに挑戦し、経験のある子が投げ方や動き方を丁寧に伝えた。最初は遠慮していた子も試合が進むと積極的に走り、後半のボッチャではまた違う楽しさに表情がほぐれた。体を動かすあそびと会話の両方につながり、中高生らしい関係が広がる集まりとなった。互いの頑張りを認め合う雰囲気が、場全体をやさしく包んでいた。

*おまつり準備をしよう！ 10月4日（土）3名

地域のおまつりに向けて、わたあめ作りや射的の準備を中学生が中心になって進めた。人数は多くなくても、経験のある子が手順を見せながら何度も確認し、本番を支える意識が少しずつ高まっていた。自分たちの役割を持って地域行事に関わることへの期待と責任感が育つ時間となった。それぞれの小さな成功が重なり、自信へとつながる時間になった。

*くらやみ児童館であそぼう！

11月15日（土）11名＋地域協力者2名

暗闇かくれんぼや光るミニカーのレースなど、中高生の発想を生かしたあそびを展開した。地域協力者も一緒にコースづくりや進行に関わり、準備の段階から笑いが絶えなかった。普段の児童館とは違う夜の雰囲気がわくわく感を高め、中高生ならではのあそび場が立ち上がった。笑顔と達成感が重なり合い、次の活動への意欲が自然に高まっていた。



***新年会 1月17日(土) 9名**

買い出しから一緒に行い、鍋を囲みながら中高生同士で新年の集まりを楽しんだ。調理の手を動かすうちに学校や部活動の話が自然に広がり、初対面の相手とも少しずつ打ち解けていった。食べることを通して安心して集まれる空気が生まれ、児童館の居場所としての良さを改めて感じた。関わり合いの中で生まれた安心感が、会の最後まで心地よく続いていた。



***お泊まり会ミーティング 2月7日(土) 6名**

お泊まり会に向けて食事やあそびの内容を話し合い、参加した中高生が次々に意見を出し合った。経験のある子が流れを説明すると、初参加の子も『それやってみたい』と声を上げ、場がぐっと動き出した。自分たちで行事をつくる実感が高まり、本番へ向かう気持ちがそろっていく時間となった。自分たちでつくった経験が、確かな手応えとして一人ひとりに残った。

***中高生お泊まり会 3月21日(土)～22日(日) 掲載済**



4. 子育て支援

(1) おでかけひろば活動・サークル活動

*ぽっぽひろば(主に1歳児) 通年

毎回プログラムはありつつも、プレイルームに遊具を出し、親子が子どもの様子に合わせて過ごせる場を通年で設けた。天気の良い日は小広場で水あそびやボールあそびも行い、おでかけひろば『一空』スタッフによる工作やおはなし会のプログラムも親子の楽しみとなった。日常の中で無理なく立ち寄り、保護者同士もゆるやかにつながる居場所となった。

*ひよこひろば(主に0歳児) 通年

輪になって手あそびを楽しんだあと、毎回テーマを変えた自己紹介を行い、乳児親子やマタニティの方が安心して話せる場をつくった。栄養士や歯科衛生士、保健師、子育てサポーター、おでかけひろば cobaco、支援コーディネーターも関わり、学びと交流が自然につながった。楽しさの中にも学びがあり、日常へつながる実感を得られる機会となった。

*にこにこサークル(主に2歳以上) 通年

親子の『したい』『やりたい』をもとに活動内容を考え、外あそびを中心に公園へのおでかけや水あそび、季節の行事、調理などを重ねた。参加者同士が相談しながら場をつくることで、子どもだけでなく保護者同士の距離も縮まっていった。自分たちで活動を形にする楽しさがあり、継続的なつながりが育つサークルとなった。



*おひさまタイム(乳幼児) 通年

乳幼児室だけでなく廊下にもボールプールや電車、トンネルなどを広げ、親子がゆったり遊べる環境を整えた。異年齢の親子が自然に関わり合う様子が見られ、安心して過ごせる居場所として機能していることを感じた。

(2) 子育て講座

*バランスセラピー 5月22日(木) 15組31名

赤ちゃんの姿勢や動きの発達を学び、親子でケアやマッサージを実際に体験した。講師の話にうなずきながら質問する姿が多く、夫婦で参加した家庭も互いの気づきを言葉にしていた。育児の不安をひとりで抱えずに話せる空気が広がり、家庭ですぐ試したくなる学びにつながる講座となった。それぞれのペースを大切にしながら、安心して関われる空気があった。

*らくちんだっこ講座

6月21日: 8組23名、10月8日: 11組22名

赤ちゃんの体に負担の少ない抱っこやおんぶの方法を、講師の実演を見ながら学んだ。お父さんの参加もあり、自己紹介や質問の時間には育児用品や日々の困りごとについての情報交換が自然に広がった。体が楽になる感覚をその場で確かめながら、家庭で生かせる手応えを持ち帰る講座となった。



*夏のちびっこ水あそび

7月25日(金)・26日(土) 延べ25組61名

広場にプールやたらいを出し、乳幼児親子が水の感触をそれぞれのペースで楽しんだ。はじめは慎重だった子も、手や足で水をたたくうちに表情がほぐれ、保護者の笑顔も広がっていった。土曜日には家族そろって過ごす姿もあり、夏ならではの開放感と交流が心地よく生まれ、楽しんでいる様子がうかがえた。



***親子体操講座 9月18日(木) 16名**

ボールやバルーンなど普段あまり使わない遊具を取り入れ、親子で伸び伸びと体を動かした。初参加の親子も周囲の明るい雰囲気にもまれて無理なく輪に入り、終わるころには笑顔がぐっと増えていた。体を動かす楽しさと親子で触れ合う安心感の両方が伝わる講座となった。やってみる楽しさが広がり、次の一步を後押しする時間となっていた。

***わらべうた講座 9月17日: 12組 24名、2月4日: 7組 15名**

講師のやさしい歌声に合わせて、抱っこや手あそびをしながら親子でわらべうたを楽しんだ。赤ちゃんの動きに応じて自然に笑顔がこぼれ、参加者同士の会話も広がっていった。家庭でもすぐ取り入れやすい歌が多く、日常の子育てに寄り添う学びの場となった。

***ベビーマッサージ 10月1日: 9組 18名、1月28日: 6組 14名**

赤ちゃんの肌にやさしく触れながらベビーマッサージを行い、親子で落ち着いた時間を過ごした。講師が用意したお茶を囲む場面では保護者同士の会話も広がり、お父さんの参加も安心感につながっていた。赤ちゃんが泣いたときも職員がさりげなく支え、ほっと力を抜ける講座となった。

***リトミック講座 10月21日(火) 11組 22名**

音楽やリズムに合わせて体を動かし、親子で表現する楽しさをたっぷり味わった。最初は様子を見ていた子ども、鈴やタンバリンが出てくると表情が変わり、音に合わせて体が自然に揺れ始めた。年齢に応じた流れの中で、それぞれのペースを大切にできる安心感のある講座となった。

***親子で楽しもう! 冬のコンサート 12月5日(金) 29組 59名**

生演奏に合わせて親子でリズムあそびを楽しみ、笑顔が見られた。広い空間の中で子どもたちは自由に動き、保護者もその姿を温かく見守りながら一緒に音を味わっていた。寒い季節に、地域で心地よくつながる時間を共有できるコンサートとなった。一人では得にくい感動や喜びを、みんなで分かち合える機会となった。

***スプーン灸で赤ちゃんケア 12月11日(木) 19組**

身近なスプーンを使った赤ちゃんケアの方法を学び、保護者が実際に手を動かして感覚を確かめた。講師の説明を聞きながら『家でも続けてみたい』と感想を交わす姿もあった。寒い季節に親子で向き合う時間の大切さを改めて感じる講座となった。

***親子で楽しくふれあいあそび 12月20日(土) 29名**

抱っこや追いかけてなど親子でしっかり体を動かし、お父さんの参加も目立った。はじめは緊張していた子どもあそびが進むにつれて笑い声が増え、保護者も一緒に汗をかきながら表情をほぐしていった。家庭でも続けやすいあそびのヒントが多く、親子それぞれに手応えが残る講座となった。

***積み木であそぼう 3月14日(土) 10組 25名**

親子で高く積んだり、家や線路をつくったりしながら、積み木の面白さをたっぷり味わった。お父さんの参加も多く、子ども以上に夢中になって工夫する大人の姿に会場から笑いが起こった。崩れてもまた作り直すやり取りの中で、親子の豊かなコミュニケーションが自然に深まっていった。



（３）多胎児家庭への支援

＊ふたご・みつごの会 ９月２７日：４組１６名、２月２８日：３１名

多胎児を育てる家庭や妊婦の方が集まり、日々の悩みや工夫を安心して言葉にできる場となった。先輩保護者や職員がさりげなく支える中、参加者同士で子どもをあやし合ったり連絡先を交換したりする姿が見られた。

（４）多文化交流

＊あつまれ国際ファミリー

５月１７日：２組４名、１０月１１日：９組２５名、２月１４日：６組１８名

海外にルーツを持つ家族が集まり、絵本や手あそび、季節の話題を通してゆるやかに交流した。名前の由来や出身国の行事の話が自然に広がり、笑顔で聞き合う様子が見られた。言葉や文化の違いを越えて、安心してつながれる場のニーズを感じた。



（５）小学生以上保護者向け講座

＊とまどい思春期ドッキドキ ３月５日（木） １６名

思春期の子どもの心理や関わり方について保護者が日々の戸惑いを持ち寄って考え、講師を選定した。講座中は児童館で子どもを預かる配慮があり、参加者が落ち着いて耳を傾けられる空気が整っていた。家庭だけで抱え込まないことの大切さを確認し合い、支え合いにつながる学びの時間となった。関係の深まりと活動の充実が重なり、豊かな時間として確かに刻まれた。

5. 地域連携

*ブンブンごまづくり

4月24日（木）40名＋地域協力者3名

さくら花見堂コミュニティ支援事業との連携行事。地域協力者にコツを教わりながらブンブンごま作りに取り組んだ。糸のねじり方や回し方を何度も試すうちに『回った』『もっと速くしたい』という声が広がり、高学年が小さい子に見せる姿もあった。



*リンググライダーとストローヒコーキづくり 9月19日（金） 41名



さくら花見堂コミュニティ支援事業との連携行事。地域協力者や施設スタッフと一緒に工作を楽しんだ。広い遊戯室で飛ばしてみると、子どもたちは羽の角度や重さを変えながら何度も改良を重ね、よく飛ぶ形を夢中で探っていた。作って試す面白さが広がり、地域の大人と関わる安心感も感じる時間となった。互いに支え合いながら進めたことで、場に心強い一体感が生まれていた。

*だいたフェスタへの協力 12月13日（土） 265名

代田小学校を会場にした地域のイベントに職員が協力し、綿菓子機貸出やゲームコーナーの運営支援を行った。来場した親子が楽しそうにコーナーを回る中で、児童館の活動を知るきっかけも自然に広がっていった。館の外でも子どもたちの笑顔に出会い、地域に開かれた児童館の役割を改めて感じる1日となった。

*せたホッと共催 子どもの権利学習講座 1月30日（金） 19名

せたホッとと共催し、風船あそびやゲームを交えながら子どもの権利を身近に考える時間をつくった。友達と協力してあそび方を考える中で、『自分も相手も大切にしたい』という感覚が少しずつ言葉になっていった。難しいテーマを生活につなげて受け止められる、やわらかくも学びの深い講座となった。



*親児フェスティバルへの協力 2月14日（土）

代沢小学校の親児フェスティバルでゲームコーナーの運営を支え、PTAや学生ボランティア、地域の方と一緒にイベントをつくった。来場した親子が笑いながらあそぶ様子がたくさん見られ、学校と地域、児童館の距離がぐっと近づく空気が生まれた。顔の見える関係づくりの大切さを実感する連携の1日となった。

*せたがや梅まつり（子どもデー） 3月1日（日） スタッフ35名、来場者約350名

羽根木公園で開かれた梅まつりの子どものあそび場で、昔あそびやゲームコーナーを運営した。中高生スタッフも来場者への声かけやあそびの説明に積極的に関わり、地域の大きな行事の中で児童館の力が生き、中高生の頼もしさが光る1日となった。

*革のネームタグづくり 3月6日（金） 55名

さくら花見堂コミュニティ支援事業との連携行事。刻印を使った革のネームタグづくりを行った。地域の方に道具の扱い方を教わりながら、子どもたちは模様や文字の配置をじっくり考え、本格的な素材に向き合った。金具を打つ音が響くたびに期待が高まり、完成品を誇らしそうに見せ合う姿が印象に残った。和やかな空気の中で互いを知ることができ、安心感のある交流へとつながった。



6. 新 BOP 連携

(1) 代沢小新 BOP

*リンググライダーをつくろう 6月11日(水) 66名

新 BOP へ出向き、体育館でリンググライダーづくりと飛行あそびを行った。形や重さを変えながら『もっと飛ばしたい』と何度も試す姿が続き、友達同士で飛び方の違いを見せ合う場面もあった。新 BOP の場で児童館職員と出会うことで、あそびの面白さと館への親しみが広がる活動となった。

*風を作って飛ばそう 2月25日(水) 39名

ビニール袋に好きな絵を写して自分だけの風を作り、完成後は体育館で元気よく飛ばした。雨天で外には出られなかったが、走るたびに風がふわりと上がり、何度もやってみたくなる高揚感があった。新 BOP 指導員との連携の中で、工作と運動の両方を楽しめる時間となった。

(2) 代田小新 BOP

*いろんなスポーツに挑戦！(6月) 6月18日(水) 64名

新 BOP でラダーゲッターや的当てなどのあそびのブースを展開し、子どもたちは順番に回りながら体を動かした。あそび側だけでなく店員役に立ってあそび方を説明したり、うまくできた友達に拍手を送ったりする姿があった。新 BOP での体験が児童館への親しみにつながり、あそびの幅を広げるきっかけとなった。

*おまつりリターンズ 11月12日(水) 42名

児童館おまつりの雰囲気学校のランチルームに持ち込み、ゲームを通してにぎやかな時間をつくった。以前にお店番を経験した子が今回も役割を担い、その姿を見て『自分もやりたい』と動き出す子も現れた。あそびだけでなく支える楽しさが広がり、新 BOP の中に児童館らしい関係が育つ機会となった。



*いろんなスポーツに挑戦！(12月) 12月17日(水) 51名

新 BOP で動く工作づくりやあそびのコーナーを展開し、廊下など学校の空間も活用しながら楽しんだ。作ったものでその場ですぐあそべる面白さが伝わり、男子児童も夢中になって何度も試す姿が見られた。後日児童館を訪れる子もあり、新 BOP と館をつなぐ活動として確かな手応えが残った。

*代田南児童館体験ツアー 3月27日(金) 10名

新 BOP の子どもたちが実際に児童館まで来館し、行き方の確認と館内体験を行った。常連の子が案内役となって謎解きやボードゲームと一緒に楽しむうち、初めて来た子の表情も少しずつほぐれていった。卒所後の放課後の新しい居場所として児童館を身近に感じられる、橋渡しの時間となった。

